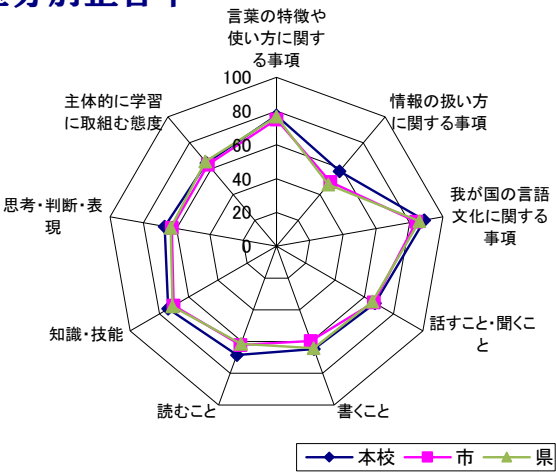


宇都宮市立西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.4	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	58.0	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.9	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	67.4	66.5	65.5
	書くこと	64.8	59.6	64.2
	読むこと	68.5	62.2	61.5
観点	知識・技能	74.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	67.2	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	64.4	63.0	65.5



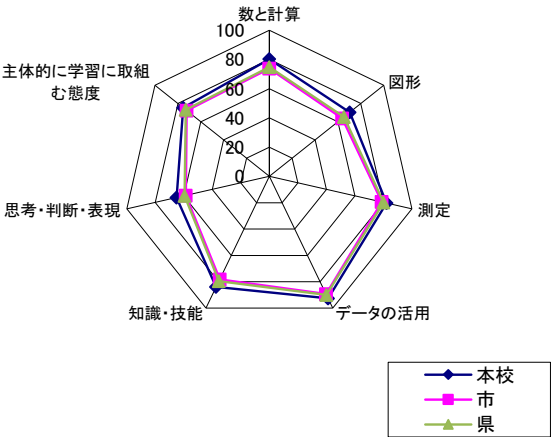
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも2.3ポイント高い。 ○漢字の読みについては、90～100%の正答率のものが多く。 ●漢字の書きについては、55～60%の正答率のものもあり、市の平均よりも低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字ドリルやデジタル教材を活用し、繰り返し読み・書きの練習に取り組み、定期的にミニテスト等を実施して定着を図っていく。 ・他の教科の学習や日記等、既習漢字を使って、文章を書くよう意識させる。
情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも8.4ポイント高い。 ○国語辞典の使い方に関する設問では、本校の平均正答率は市の平均より高い。	・引き続き、わからない語や新出単語を、普段の授業や家庭での学習の中で辞書を引かせ、使う習慣を身に付けさせる。
我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも4.9ポイント高い。 ○正しい部首名をほとんどの児童が選択できていた。漢字のへんやつくりを理解できていると言える。 ●主語と述語の関係について理解しているかの問題の正答率は65%であり、市の平均より低い。	・漢字ドリルやデジタル教材で読み書きを学習するときに、今後も引き続き漢字の部首や成り立ちなども確認する。 ・主語述語を意識して文を読めるよう、類題を解いたり、本を読む機会を増やしたりしていく。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも0.9ポイント高い。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことにおいて課題が見られた。	・ペアやグループでの話し合い活動を多く取り入れたり、テーマを設けたスピーチを継続して実践したりして、分かりやすく話すこと、相手の伝えたいことが何かに注意しながら聴くことの両面を意識させ、コミュニケーション力を定着させたい。 ・どういう点に注目して聞くのかをあらかじめ伝え、聞き方の姿勢を指導していく。
書くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも5.2ポイント高い。 ●指定された長さで文章を書くこと、2段落構成で書くこと、自分の考えやその理由を明確にして文章を書くことにおいて課題が見られた。	・各行事の振り返りや日記指導を継続して行うことで、書くことに対する抵抗感をなくす。また、条件に合わせて書く経験を増やしていく。 ・日頃から物事を書く際に、理由を書くことを意識するようさせる。
読むこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも6.3ポイント高い。 ○物語文では、登場人物の気持ちや場面の様子について叙述を基に捉えたり、文章を読んで感じたことや考えたことを共有したりする全ての設問において、本校の正答率が市の平均より高い。 ●説明文で叙述を基に内容を捉え、文章に合うものを選択する設問では、本校の正答率が市の平均より低い。	・物語文について、中心人物の心情が分かる言葉に着目させ、そこから心情を読み解き、気持ちの変化を捉える学習を実践していく。 ・日頃から読書に親しみ、要旨を簡単にまとめる時間を確保するなど、読むことへの抵抗感をなくし、内容理解を深められるようにする。

宇都宮市立西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.2	73.8	74.8
	図形	70.4	63.7	65.3
	測定	82.2	78.9	80.1
	データの活用	92.6	89.3	90.0
観点	知識・技能	83.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	65.1	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	75.5	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

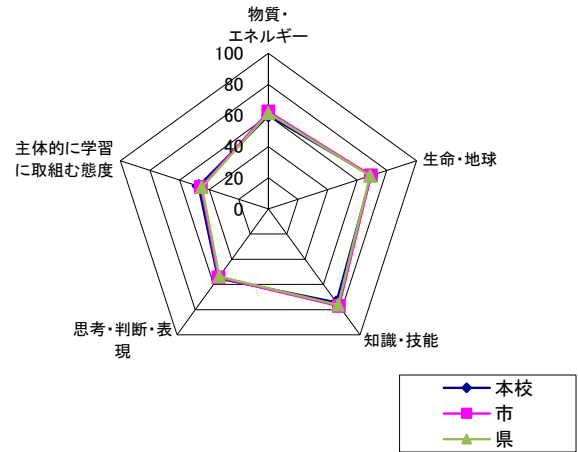
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は、市の平均より6.4ポイント高い。 ○3桁同士の繰り上がりが3回あるたし算では、100%の正答率だった。 ●整数・小数の計算やかけ算の暗算の仕方を説明する設問では、正答率が低い。	・計算ドリル、タブレット等を活用し、問題を繰り返し解くことで、正確に計算できるよう定着を図っていく。 ・筆算などの計算の途中で、それぞれの数字や式がどんな意味を表しているかを確認して指導していく。今後も、日々の授業の中で出てくる既習事項を丁寧に確認しながら学習を進めていく。
図形	本校の平均正答率は、市の平均より6.7ポイント高い。 ○円の直径が正しいものを選ぶ設問やコンパスを使って作図をする設問はよくできている。 ●他の領域と比べて校内の平均正答率が低い。特に円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する設問は、円の直径や半径などの基本的事項の理解に課題が見られる。	・円や球についての基本的な事項の確認や復習を行う。 ・三角定規やコンパスの使い方など技能面を伸ばせるよう、図形の学習のときに基本的な書き方を改めて確認する。
測定	本校の平均正答率は、市の平均より3.3ポイント高い。 ○はかりの目盛りの読み方を理解して、正しい重さを選ぶ設問はできている。 ●2つの時刻の間の時間を求める設問や道のりの意味を理解して正しい道のりを選ぶ設問では、本校の平均正答率は、県の平均正答率を下回っている。	・時刻と時間や道のりと距離の違いについての基本的事項の確認や復習を行う。問題文を繰り返し読むことで問題の意図を正しくつかんだり、図に表したりして理解できるよう指導していく。
データの活用	本校の平均正答率は、市の平均より3.3ポイント高い。 ○棒グラフの1めもりの大きさに着目して、グラフを読み取る設問では、本校の平均正答率は92.6%と高く、理解が深まっていることが読み取れる。	・更に力を伸ばすために、文章や図、グラフなどの複合的な問題にも挑戦し、データを読み取り活用できるように指導を行っていく。

宇都宮市立西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.0	62.5	61.5
	生命・地球	69.4	69.2	68.6
観点	知識・技能	74.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	55.1	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.2	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均よりも2.5ポイント下回っている。 ○電気の通り道について選択する問いでは、市のポイントを上回っている。また、風とゴムの働きについて実験の結果からゴムの長さを推測する問いで、市のポイントより大きく上回っている。児童一人一人が実験用具を用いて、様々な実験を重ねた成果であると考えられる。 ●光の性質について実験結果を推測したり、現象について説明したりする問いや、電気の通り道についての学習で、おもちゃの構造から適切な回路を想像する問いについては、市のポイントを下回っている。また、自由に動ける磁石の針が北を示すことを理解しているかの問いでは、正答率が下回っている。	・今後も、児童一人一人が実験器具を用いて、様々な条件の下で検証を行う体験を多く取り入れる。 ・実験・観察を多く体験させると共に、実験器具の正しい使い方を確認させることで、しっかりと習得させる。 ・予想、実験・観察、考察、まとめという過程を大切に授業の組み立てを行い、実験・観察の技能を高め、学び合い考察することを通して、思考力を高めるようにする。 ・児童自身が考えた問いや疑問をもとに、実験観察の方法を考えさせることで主体的に学ぶ力を育み、学習したことを生活の中で生かすことができるようにする。
生命・地球	平均正答率は市の平均よりも上回っている。 ○ホウセンカの観察カードから、成長の様子を推測したり、昆虫の体のつくりから昆虫を選択したりする問いについては、市の平均を大きく上回っていた。また、植物の体のつくりや棒温度計の使い方についても、市の平均を上回っていた。棒温度計を多く使用し、正しい使い方の定着を図ったことや、具体的な植物や昆虫を用いて観察を重ねた成果であると思われる。 ●虫眼鏡の正しい使い方についての問いでは、市の平均より下回っている。ホウセンカの子葉についての問いも市の平均を下回っている。また、太陽と地面の様子についての問いでは、県や市と共に正答率が低い値を示している。	・植物の観察や、昆虫の観察においては、一人一人が身近な動植物の観察をし、観察したことの交流を通して、技能を高めることができた。他の学習内容においても、空間的・時間的等、様々な見方を働かせ、継続的に実験観察に取り組ませていくことで、技能や知識を身に付けていくようにする。 ・実験・観察器具の正しい使い方を習得させるために、何度も繰り返すことで、習熟させる学習活動を行う。 ・どの学習内容においても、実験観察を行う際には、条件設定を正しく把握させ、差異点や共通点及びその実験において着目させたい科学的な視点を話し合って共通理解を図った上で取り組みませ、結果を表現させ、それをもとに考察させ、互いの考えを共有し議論する活動を通して、思考力や表現力を高めていくようにする。

宇都宮市立西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループの話し合い活動に自分から進んで参加している」や「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の質問では、肯定的な回答の割合が県や市の平均を上回っていることから、クラスの中で、児童が活発に発表や話し合い活動に参加していることが分かる。

○「1か月に何冊くらい本を読みますか」の質問では、11冊以上読むと回答した割合が22%県や市の平均を上回っていることから、本校の推奨する読書推進のための様々な取り組み(読書カード・親子読書・読書週間・読書集会)の成果が発揮されていると言える。

○「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の質問には、肯定的な回答が県平均を15%上回っていることから、宇都宮が推奨する「宇都宮モデル」を意識した授業の徹底が浸透していることが分かる。

●「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」の質問では、「はい」と回答した児童の割合が県平均よりもおよそ25%低く、やる気がでないと答えた割合が13%高い。自らの生活や経験を活かした学習目標を設定させたり学習計画と一緒に立てたりしたりすることで、学習に興味を持たせる。また、体験的な活動を取り入れ、興味関心をもたせる授業展開を工夫する。

●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたいと思う」、「勉強していて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」のいずれの質問も「いいえ」の回答が県や市の平均を上回り、肯定的な割合が低い。一方で、「本やインターネットを利用して学習に関する情報を得ている」という質問の回答は、県や市の平均の割合を大きく上回っている。このことから、コロナ禍において、タブレット端末を利用した学習の広がりが見られ、体験活動の制限などの影響から十分な体験の機会がえられなかったことが、意欲の低下や意識の低下に繋がっているのではないかと推測される。以上のことから、学習場面において体験的な学習や疑似体験(視聴覚教材)を伴う活動を増やし、考え方や意識改革を図る。